

聖霊降臨の主日

ヨハネ 14・15-16、23b-26

2022.6.5

カトリック高円寺教会 9:30 ミサ

主任司祭 高木健次神父

今日、わたしたちは聖霊降臨の祭日のごミサをお捧げしています。聖霊降臨は教会の中でとても大切にされています。だから、ご復活のときには「ご復活おめでとうございます」と挨拶しますが、「聖霊降臨おめでとうございます」ってあんまり言わないんだけど、言ってもいいくらいです。

イエス様は、神様がどういう方であるのか、そして、神様がわたしたちに何を望んでいるのか——神様が望んでいらっしゃることは、わたしたちが本当に幸せになる道ですけど——、それを示すために、人となってこの世にいらっしゃいました。わたしたちがこのイエス様に会い、そして、そのおっしゃることを本当に心の中で受け取って生きることができるようになるために、聖霊はわたしたちの内側から助けてくださる。そういう神様ですね。だから、わたしたちはいつも、最初の弟子たちのときから、今日以来聖霊の内側からの助けに従ってイエス様に会い、そして信仰生活を送り、それぞれの人と人との交わりの中で恵みを受け取ったりまた渡したりしている。そういう意味で、今でも、過去の弟子たちが体験した出来事だけでなく、今の教会の有様を表わしている。そういう意味で大切な祭日であると言えます。

イエス様が人となってこの世に来られた。その目的は、神様とわたしたちの、溝ができちゃっている、それを埋めるというか、神様ともう一回人類が、そして創られたすべてのものが出会い直す。そういう、神様との、よく使われる言葉で言うならば、神様との和解ですね。神様と和解するっていうことは、自分の命が神様から戴いている、そして、いつも神様と共に生きているんだっていうことをいつも思い起こすだけではなくて、いつもそれを中心にしながら、その他に3つの側面があると言えます。

一つは、神様からいただいた自分自身を本当に感謝して受け取っていくという、自分自身との和解ですね。そして、同じように神様から命を頂いて共に生きている他の人々との和解。そして、今特にフランシスコ教皇様が強調されて

いるように、創られているのは何も人間だけじゃない、神様がお創りになった全ての被造物との和解。自然環境とか。

だから、イエス様を通して、わたしたちは神様と和解し、自分自身と和解し、周りの人、他の人と和解し、全ての被造物と和解して、時々傷つけあったりとか罪を伝達し合ったりしてしまうような関係じゃなくて、本当にいいものを互い同士豊かにし合う、そういう関係になっていくように招かれている。それがわたしたちの中にいつも働いていらっしゃる聖霊の働きなんだ、と言えます。

それは大きな話になっちゃうけど、具体的に言うならば、聖霊の働きは、例えば日々のいろんな意見が対立した相手に対して激しい言葉を言いそうなところを、もっと穏やかに冷静にお話するとか、あるいは、普段何気なく通り過ぎていたような相手に対して微笑むとか、一つひとつの小さな行動を通してわたしたちが変えられていく。そのために、自分の力じゃなくて、今歌われた「聖霊の続唱」、聖霊への祈りですね、いつも聖霊に向かって助けを求める必要がわたしたちはあるし、その祈りをするならば、聖霊の働きがいろんなことを通してわたしたちを助けてくださるということを体験できると思います。

わたしたちの心はいつも固くなったり、冷たくなったり、乱れたりする。だけど、聖霊が共にいてくださって働いてくださるから、それでも良い恵みを戴きまた渡す者であることができるんだ、という信仰ですね。だから、今日一緒に聖霊降臨の祭日のごミサをお捧げしている。そして今日はとっても大切なので、この後にも他の地区の方も出られるようにミサをする。そのくらい大切なんだということですね。

そのことを思い起こしながら、この祭日を通して、でも、今日だけでなく、これから新たに、でも聖霊の助けのもとに生きながら、自分の日々の行動がちょっとずつでも良いものに、恵みを受けた者としてふさわしい、と言うとなんかちょっと堅苦しい言い方だけど、本当に喜びをもって、神様と共に、そして自分自身と共に、周りの人と共に、自然環境と共に生きる者とされていく、この恵みを願いながら、信仰生活を歩んでいけたら良いなと思います。だから、今日、お互いの上に聖霊の助けと働きを願いながら、このごミサを共にお捧げいたしましょう。